

テーマ：「図書館員がビジネスマンにすすめる伝記・人生訓的な本」

作成：2021年1月

No	カテゴリー	リンク	タイトル	著者	出版者	出版年	ISBN/ISSN	一言コメント
1	伝記	https://www.amazon.co.jp/dp/4829504862	『日本を牽引したコンツェルン（シリーズ情熱の日本経営史第9巻）』	宇田川勝／著	芙蓉書房出版	2010	9784829504864	シリーズ情熱の日本経営史9巻。明治から戦後において目覚ましい発展を遂げた重化学工業の分野での一大企業集団、新興コンツェルンと呼ばれたグループのうち、3人の実業家、鮎川義介、野口遵、森島昶を取り上げる。
2	伝記	https://www.amazon.co.jp/dp/4806916706	『明治維新の理念をカタチにした：前島密の構想力』	加来耕三／著	つちや書店	2019	9784806916703	郵政の父として知られる前島密は実は明治維新全体でも他に大きな役割を果たしている。筆者の焦点は改革そのものよりも、彼の行動力の根本にあった構想力の凄さに焦点を当て、4つの要素を5つの章に分けて書いている。
3	伝記	https://www.amazon.co.jp/gp/product/4065149606	『スティーブ・ジョブズ 1・2』	ウォルター・アイザックソン／著、井口耕二／訳	講談社	2015	9784062816144 9784062816151	カウンターカルチャーとテクノロジーが交差する時代に生まれ、一夜にして我々の世界を変えたイノベーター、スティーブ・ジョブズの生い立ちからがんに倒れるまでの56年間の軌跡。
4	伝記	https://www.amazon.co.jp/dp/4878934735	『エリック・ホッファー自伝：構想された真実』	エリック・ホッファー／著、中本義彦／訳	作品社	2002	9784878934735	7歳で母親と視力を失い、18歳で天涯孤独に。流れ着いたサンフランシスコで港湾労働者として働きながら、めちやくちゃ本を読み漁って、独自の社会哲学を切り拓いたホッファー。「世界で生じている問題の根源は自己愛にではなく、自己嫌悪にある」など、深い言葉がいっぱい。人生で何度も読み返したくなる本。
5	伝記	https://www.amazon.co.jp/dp/4532320216	『運は創るもの：私の履歴書』	似鳥昭雄／著	日本経済新聞出版	2015	9784532320218	昭和という時代のせいもあるけれど、滅茶苦茶で面白い。連載当時ずいぶん話題になった「私の履歴書」を加筆修正してまとめたもの。警察が出てくるくらい破天荒ではあるが、努力家でもあり、奥様や社員に恵まれる人望もみどころ。
6	伝記	https://www.amazon.co.jp/dp/4003310225	『新訂福翁自伝』	福澤諭吉／著	岩波書店	1978	9784003310229	1898年7月1日から1899年2月16日の時事通信に掲載された口述筆記に、福澤自身が推敲加筆を加えたもので、わが国自伝文学の傑作として名高い。1901年に他界した福澤諭吉の最晩年の回顧録だ。中でも師・緒方洪庵のもとで学んだ適塾の青春時代は思い出深く、「ただ難解、ということで夢中になって取り組んだ、目的のない勉強ができたことは仕合せだった」と振り返る実学の祖の言葉は、心に刺さる。
7	伝記	https://www.amazon.co.jp/dp/4093897778	『カルピスをつくった男：三島海雲』	山川徹／著	小学館	2018	9784093897778	三島海雲は大阪の僧侶の家に生まれた。25歳で中国大陸にわたり、内蒙古で酸乳と出会う。幼少時より病弱だった三島はモンゴル民族のたくましさに驚嘆し、彼らがユーラシア大陸を席卷したのは、その食文化にあると確信する。本書にはカルピスの誕生から、乳酸菌にかけた三島海雲の生涯が描かれる。後年、カルピスは乳酸菌を使った健康飲料、それをもっとアピールすればという社内意見から「カラダにピース」の新キャッチフレーズが生まれた。苦境のときにも帰るべき「原点」をもった企業はやはり、強い。
8	伝記	https://www.amazon.co.jp/dp/4492046178	『SHOE DOG：靴にすべてを。』	フィル・ナイト／著	東洋経済新報社	2017	9784492046173	ナイキ創業者の、会社立ち上げから株式上場までの自伝。教訓的な話は少ないが、自らをバットフェイス（ダメ男）達と称する経営陣が、信念を武器に逆転するストーリーは、なんとも痛快。
9	伝記	https://www.amazon.co.jp/dp/4044090017	『論語と算盤』	渋沢栄一／著	KADOKAWA	2008	9784044090012	渋沢栄一の持論、江戸期の武士階級にあった武士道精神による道徳教育と、どうお金を稼いで儲けていくかという農工商階級の考えは、いずれも論語からきているのだから、整合性がとれるものだとする考え方が書かれている。
10	伝記	https://www.amazon.co.jp/dp/4270003499	『最後の授業：ぼくの命があるうちに The Last Lecture: Lessons in living』	ランディー・パウシュ／著、ジェフリー・ザスロー／著、矢野野薫／訳	武田ランダムハウスジャパン	2008	9784270003497	仮想現実とアートを組み合わせた技術で、ディズニー3Dの制作に多大な貢献をしたといわれる研究者。すい臓がんを患い、48歳でこの世を去るまえ、カーネギーメロン大学で行なった最後の授業の再録と、その前後のエッセイ。最後は泣きながらページをめくることになる。
11	文学	https://www.amazon.co.jp/dp/4167105861	『菜の花の沖 新装版 1～6巻』	司馬遼太郎／著	文藝春秋	2000	9784167105860	高田屋嘉兵衛の生涯。経営者が大好きな司馬遼太郎の作品をなにか入れたかったため、北海道ゆかりのこちらを。

テーマ：「図書館員がビジネスマンにすすめる伝記・人生訓的な本」

作成：2021年1月

No	カテゴリー	リンク	タイトル	著者	出版者	出版年	ISBN/ISSN	一言コメント
12	記録・手記・ルポ ルタージュ	https://www.amazon.co.jp/dp/4560097313	『パトリックと本を読む：絶望から立ち上がるための読書会』	ミシェル・クオ／著，神田由布子／訳	白水社	2020	9784560097311	著者がアメリカ南部の貧困地域で教師として生徒に本を与え、パトリックは変わっていく。だが数年後、犯罪を犯し拘置所にいるパトリックと再会し、もう一度ともに本を読み心に寄り添う。そこから尊厳を取り戻していく。本は人を変える。私は「TED Talk」でミシェル・クオが「The healing power of reading」を語っているのを見て感動し、後にこの本が出版され読みました。ぜひ、本の力を伝えたい。
13	人生訓	https://www.amazon.co.jp/dp/4569534074/	『道をひらく』	松下幸之助／著	PHP研究所	2012	9784569534074	雑誌PHPで連載してきた短文集。初版は1968に発行されており、今回紹介した本は2012年に新しい版で発行したもの。その時点で奥付に202刷と表記がある。ひと項目につき2頁だが文字が大きいので文字数は通常の文庫版1頁だろうか。今読んででもなおたくさんの気づきがあると感じる。
14	人生訓	https://www.amazon.co.jp/dp/4818405787	『私には夢がある：キング牧師フォト・ドキュメント』	チャールズ・ジョンソン／編，ボブ・エイデルマン／編，山下慶親／訳	日本キリスト教団出版局	2005	9784818405783	「グレートブックス」というビジネスマンの読書会がある。本書はその現代版となりうる一冊だ。アメリカの公民権運動家マーティン・ルーサー・キング牧師の生涯を、39歳で凶弾に倒れる瞬間まで美しいモノクロ写真で再現する。今はネットで先人の名言等を一覧できるが、その言葉がどこで、どんな場面で放たれたのかは重要だ。本書の頁をめくると、画面の中にとりこまれるような錯覚に陥る。「私には夢がある」のスピーチはネットに動画もあるが、一瞬を切り取る写真の熱量は、観る者にその言葉がもつ歴史の響きを伝えてくれる。
15	人生訓	https://www.amazon.co.jp/dp/4003361016/	『自省録 改版』	マルクス・アウレリウス／著，神谷美恵子／訳	岩波書店	2007	9784003361016	<p>ストア哲学の精髓。哲人皇帝と呼ばれたローマ五賢帝最後のマルクス・アウレリウスが、公務の中、書き留めた箴言集。</p> <p>「100分de名著」でアドラー『人生の意味の心理学』で解説を務めた岸見一郎氏が、この『自省録』の回でも解説。</p> <p>現在の岩波文庫版は、同番組でも採り上げた『生きがいについて』の著者・神谷美恵子の訳であり、解説も神谷の手になる。</p> <p>マルクス・アウレリウスは、ストア哲学を学んだが、本書に表れているのは、観念に関わるものではない。先帝までの平和な時代ではなく喫緊の戦争に従軍しながら、子を喪った父として、現世の苦悩の中で自らのために、ことばを綴ったという。</p> <p>その等身大のことばに影響を受けた人々は少なくない（と解説にある）。</p> <p>関連書も紐解いてみたが、訳・解説ともに、この岩波文庫がよいと思われた。</p> <p>本書の解説としては、荻野弘之『マルクス・アウレリウス『自省録』：精神の城塞』岩波書店、2009.がある。</p>